

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市子育てふれあいプラザ若林		
2 指定管理者	せんだいファミリーサポート・ネットワーク/冒険あそび場せんだいーみやぎネットワーク		
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和6年度 30,269人(前年度比 111.3%) 内訳 ひろば:28,834人 託児:1,435人 ※視察等:444人 令和5年度 27,203人 令和4年度 14,748人		
	《事業》 乳幼児親子の交流の場の提供、一時預かり、子育てに関する情報収集・提供等、子育てを総合的に支援する事業 子育てに関する事業を行う者(子育て支援活動団体)に関する事業、中高生に関する事業		
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 26,931千円 (26,321千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)		
	《収入》 ・ 使用料収入 3,800千円 (3,514千円) ※託児収入 ・ その他収入 66千円 (51千円)		
6 利用者の声	《実施状況》 ・意見箱の設置 ・イベント参加者に対してアンケートを実施		

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	・館内と外に遊びの場を提供し、また、イオンスタイル仙台卸町とみやぎ生協に出向きひろばを開催する等、親子が交流し子育て相談ができる居場所を、地域の資源を活用し協力を得ながら実施した。 ・若林区家庭健康課と連携し、ひろばでの育児相談を毎月実施した他、区の育児教室と両親教室での情報提供や見学の受け入れを行い、施設の周知と来館に繋げている。	24/21
II 施設の運営管理体制	・「館内事故防止チェックリスト」「消防設備等の自主点検票」による定期的な設備点検を行い結果を職員間で共有し、安全な施設運営に努めている。また、「職場安全衛生関係点検報告」の若林区文化センターへの提出や、七機関連絡会職場安全合同パトロールでの他機関職員による目視点検を実施している。 ・南小泉児童館と社会福祉協議会と共に別棟の自衛消防組織を編成して役割分担を明確にし、文化センター主催の別棟の合同消防訓練に参加している。また、緊急時の体制として、七機関の緊急連絡網や消防法に基づいた消防計画を整備している。	31/31
III 施設・設備の維持管理	・警察と連携した不審者対応訓練では、より実践的な訓練とすることで、職員の警備意識を高め、安全な環境の確保につなげている。 ・レジや鍵の管理は館長を中心とした限られた職員で行い、リスクの低減、管理体制の明確化を図っている。 ・個人情報を除いた裏紙利用、段ボールを用いた手作りおもちゃの作成、窓を開けて気温調節を行うなど、環境に配慮した取り組みを行っている。	19/19
IV サービスの質の向上	・窓口に今日のイベントを貼り出すことで、参加者以外にもイベントを広報し、参加を促している。 ・区の両親教室参加者の施設見学の受け入れや育児教室、両親教室での広報を通し、出産後の来館に繋げている。 ・法人で、自己の資質・能力の向上を促進するために、職務上のスキルアップの効果の反映が期待できる講座・資格取得について、その機会や情報の提供、経費を補助する制度を設けている。	30/28
V 施設固有の基準	・ふるさと広場や木ノ下公園でのおそとのびすく、イオンスタイル仙台卸町やみやぎ生協荒井店での出前のびすくで、親子の交流・子育て相談・情報提供等を行い、地域に出向き館内と同様の活動を行っている。 ・社会福祉協議会と共催でボランティア育成講座を開催し、活動の場を提供した。	9/9

三 評価総括

《指定管理者（せんだいファミリーサポート・ネットワーク/冒険あそび場せんだい-みやぎネットワーク）による自己評価》
来館者数が令和5年度より3,000名増加。開館前と閉館後に必要事項の確認や報告等を職員間で共有し、施設運営に取り組んだ。親子を笑顔で温かく迎え入れ、日常会話を通して安心や親しみやすさを感じてもらえるよう心がけた。清掃や消毒、安全点検を定期的を実施し、日々の積み重ねが反映され、利用者アンケートで施設や職員に対して高い満足度を得ることができた。 ふるさと広場での「おそとのびすく」では、豊かな自然に触れて外遊びを楽しんでおり、館内と外で同時に遊び場を提供し多様な遊びに触れることができる環境を整えた。参加者同士の交流や子育ての相談を受けるなど、外のひろばとして役割を果たし、地域の方々との関わりも生まれ、子育て家庭への理解を深める場所にもなっている。 相談事業では、何気ない会話から相談に発展するケースが多く、いつでも気兼ねなく話ができる関係を築き、発達や保育所入所、育児疲れ等、悩みや困りごとを丁寧に聴いた。行政や地域の子育て支援に関する情報を収集し、利用者自身が主体的に選択し活用できるよう奔走した。 区の家庭健康課による育児相談をひろばで行い、予約なしで気軽に相談できる場を提供した。育児教室に出向いての情報提供や両親教室参加者の見学受け入れを行い施設の周知と来館に繋げ、協力して子育て家庭への支援を行った。 出前のびすくを、イオンスタイル仙台卸町とみやぎ生協荒井店で定期的の実施し、普段利用するスーパーで、のびすくがひろばを開催することで安心して参加できたようだ。気軽に交流や子育て相談もできるとリピーターも増え、家にこもりがちになっていた親子に出会うこともでき、孤立感を抱えていた親の気持ちを受け止める場所にもなった。 一時預かりは、利用方法を丁寧に説明し、受け入れにあたっては利用時間やアレルギー既往症等を職員間で確認し、保護者が安心して預けることができるよう努めた。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
ひろば事業では、パンフレット等を使って丁寧に説明し、安心して利用できるようにしている。ひろばの利用時に子育てに関する相談を寄せられることも多く、必要に応じて講師によるイベントへの参加案内や、のびすく子育てコーディネーター（NoKoCo）への引継ぎを行っている。また、地域の商業施設や公園などに出向き、「出前のびすく」を実施し、普段はのびすくに来館することがない乳幼児親子や地域住民に対し、のびすくの周知・案内や子育て支援に対する理解を得られるよう働きかけを行っている。 一時預かり事業では、わかりやすく丁寧な説明を行い、保護者が安心してスムーズに預けることができるように努めている。育児疲れや心身の不調から、NoKoCoの相談や家庭健康課の保健師からの紹介で利用につながったケースもあり、支援者間での連携を続け、利用後のフォローも行っている。利用に対する抵抗や不安を和らげるため、預かりがない時間帯では、ひろば利用者に声をかけ、託児室見学を行っている。 また、複合施設内の設置である利点から、七機関連絡会における各機関の情報共有、施設の点検等より、利用者に対する区内の多様な情報の提供、安心安全な施設環境の整備を行っている。令和4年度からは地域の支援団体からなる「子育てサポネットわか隊」の運営を開始し、地域の全体の子育て支援体制の充実を図るため、支援者同士の情報交換や研修を行っている。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども家庭部子育て応援都市推進課